

第3回 主会場選定専門委員会 会議要録

1 日時

平成26年(2014年)1月30日(木) 9:30~12:00

2 場所

滋賀県庁新館4階 教育委員会室

3 出席委員(五十音順、敬称略)

宇田川 真之、大西 美和(副委員長)、北沢 繁和、小浦 久子、西條 智晴、坂 一郎、辻井 弘子、中井 敏勝、原 陽一、平林 光彦、松田 保、山崎 薫、横山 勝彦(委員長)、吉田 政幸

(欠席委員:清川 佳子)

(事務局:木村事務局長、事務局職員)

4 配布資料

別添のとおり

5 会議概要

会議冒頭、委員長より、審議事項(2)の審議について非公開とすることを諮り、委員の了承を得る。

(1) 説明・報告事項

事務局より、市町ヒアリングおよび関係競技団体ヒアリングの結果について、【資料1】【資料2】により説明。

彦根市の提案および、競技団体の意向を総合的に判断し、彦根総合運動場についてはA案(野球場存置)に絞り比較対象とすることについて事務局より説明、了承を得る。

(2) 審議事項

各候補地の施設配置計画(案)、事業費、整備スケジュールについて

事務局より、【資料3】【資料4】により説明。

【質疑】

(委員)

び文公園については新たに会場だけを造る計画となっているが、周辺整備の計画

が他にあるのか、必要なかどうか、全体像が見えない中で経費が出ているように思う。関連事業も含めた全体の事業を見たときに、コストが大きいことが必ずしもネガティブな要素にはならない場合がある。それによって集客が増えたり、維持管理経費の単価が下がったりすることもあり得る。

(事務局)

例えば主会場だけでいいのか、周辺整備も併せてやらないと生きた施設にならない、といった意見もあると考える。ランニングコストは重要な観点であり今回お示ししたが、関連事業も含めたコストをどう出すかは難しく、何とか試算したものであるとご理解いただきたい。

(委員)

ネーミングライツ料について、他府県同程度施設の平均70%での算定だが、希望的観測で現実的には難しいとの感がある。

(委員)

J1・J2対応のスタジアムがないのは全国で滋賀だけであり、対応可能なスタジアムにするには、もう少しお金がかかるのではないか。

Jリーグのホームスタジアムになれば、ネーミングライツのスポンサー申出の話も出てくるが、現状では難しいと考える。

比較評価調書(素案)について

事務局より、【資料5】【資料6】により説明。

【質疑】

(委員)

世界遺産登録への影響の趣旨は。

(事務局)

前回委員会でも論点となり、ヒアリングで確認したところ、彦根市としては一旦バッファゾーンの設定も含めたこれまでの前提を見直し、主会場はそこにあるもの、造るものとして、世界遺産登録に向けての戦略を練り直す、との方針と伺っている。

(委員)

び文公園で、残置森林確保のためには、造成するエリア周辺以外の相当の範囲についても事業区域のエリアに入れなければならないということについて、はっきりと言及が必要ではないか。当該エリアでの開発は、他所でも工業団地等、保安林解除を伴う開発をやっているから同様にできるのでは、というレベルでは済まないのではないか。

(事務局)

民有地を買収のうえ連担させる必要のあるエリアは、保安林解除するが残置森林として保全するエリアになるので、そのような公園整備計画にすれば、森林保全とい

う趣旨に適合していると言えるが、約 15ha の施設を造るために、なぜ 70ha の公園を造る必要があるのか、ということについて、県として県民や地元住民に説明できるプランを造らなければならないという問題もある。表記方法については検討したい。

(委員)

地域住民の参画の項目で、スポーツボランティア等の参画の観点からの数字はないのか。

(事務局)

ボランティアの方は、市境を越えての連携があり得ること、また現時点のスポーツボランティアの登録者数で比較できるものではなく、比較のための数字としては採らなかったものである。

(委員)

希望が丘文化公園について、主会場整備に伴い、例えばアクセス改善で公園内通路が通行できるようになると、自然公園として定着している現公園のコンセプトとずれてくるように思うが。

(事務局)

影響はあると考えられるので、その旨記載する。

(委員)

周辺大学の活用の項目が必要。

(委員)

商業施設の併設の可能性というのは、比較項目として盛り込む必要がある。

ネーミングライツを考えれば、スポンサーのつきやすさも比較項目となる。

(委員)

防災については、どの施設もプラスの効果がある。

(委員)

音楽のライブを開催できるといった観点も必要。

あとJリーグを念頭に会場を選ぶとなると、アクセスの問題が大きいと思うが、スタジアムランキングで上位にくるのは、電車でのアクセスのいいところ。全国の国体会場として整備された陸上競技場兼球技場は軒並みランキングが低い。

(委員)

他県のスタジアムの例だが、夕方7時キックオフの試合で、お昼から幹線道路が大渋滞する。鉄道で行けない所はそうなる。Jリーグの会場とするなら、試合開催時の混雑も想定しなければならない。交通アクセスは将来的に大変重要。

(委員)

人とのアクセスも重要。施設に魅力があれば遠くても行く。心理的な近さをどうつくるかも重要。商業施設を入れることにしても、ネーミングライツを使う企業にしても、建設計画段階から入ってもらい、共に考える仕組みを造ることも大事。

(委員)

スポーツツーリズムの観点からは、県外からの観光客を、スタジアムを活用しながら呼び込めるか、という項目もほしい。

(委員)

防災に関して、他府県の応援を受けるという視点からは、遠くから来る支援物資等を受け入れるためのアクセスが重要である。また南海トラフ地震などの全国的な広域災害の際に、和歌山県など県外への支援隊を一時的に受け入れるという用途も考えると、名神・新名神高速道路からのアクセスが良いと使いやすい。

また、平常時に多くのイベントを打ち、市民の交流を図ることは防災の視点からも重要。イベントの運営ノウハウは、災害時のボランティアのノウハウにもつながる。障害のあるひとも含め、多様なひとがアクセスできる、ということも重要。

(委員)

女性や子どもの使いやすい施設ならどこか、という視点も必要。

(委員)

既存の社会体育施設だけではなかなか人が集まらない。その周囲にどれだけ人を呼べるような施設があるか、という観点も項目に必要。

(委員)

都市公園にしたときに、商業施設を入れることは可能なのか。

(委員)

占用等の手続きを経て設置していることもある。利用者の利便を確保するための施設なら、手続きを経て工夫はできる。

ただ、一般的な指定管理の契約期間5年間のうちに、管理者が自ら商業施設に投資しても採算が難しく、別のスキームを考えないといけない。

(委員)

小・中・高の学校との連携も必要。

(委員)

滋賀県全体を見たときに、例えば彦根と大津では人口も違うし、需要も違ってくる。施設ができることによる地域活性化といった側面は、評価の要素として入らないのか。

(事務局)

県立体育施設の県内での配置バランスが偏っているとの指摘もあるが、バランスについては他の施設も含め議論する必要があり、主会場だけで考えられない部分もある。評価項目としては難しいが、専門委員会として報告書の中に比較検討結果とは別に付帯意見のような形で入れることも検討いただきたい。

(委員)

評価方法について、定量化は困難。それより委員自らが考えて総合的に出した結論

を持ち寄り、出し合う方がいいと思う。

(事務局)

比較項目については、皆さんの意見をもとに細分化し、ご確認いただいたうえで3月中頃には評価表を皆さんにお送りし、4回目には各々の意見を持ち寄って、議論いただきたいと考えるがいかがか。

(各委員)

了承。

4. その他

今後の進め方について、次回(第4回)一回だけで委員会としての結論を出せるかどうかについて協議。今後の日程については委員長一任とすることを了承。

また、委員の協議により、次回4回目の審議はすべて非公開とすることを了承。

(以上)